

## 2024年度 日本老年看護学会 生涯学習支援研修（災害看護） 報告

日 時：2025年2月8日（土） 13時30分～16時00分

実施方法：オンライン研修

参加者：50名（会員31名，非会員19名）

主 催：災害支援委員会

テ ー マ：災害時のトイレ事情と私たちができること

内 容：

1) 災害発生時における避難所および病院のトイレ環境の課題と対応

講 師：小原真理子（京都看護大学）

2) 災害時の感染対策

東日本大震災・能登半島地震の支援活動からみえたトイレにまつわる

感染管理の視点と課題

講 師：西條 美恵（石巻赤十字病院／感染管理認定看護師）

3) 質疑応答、グループワーク

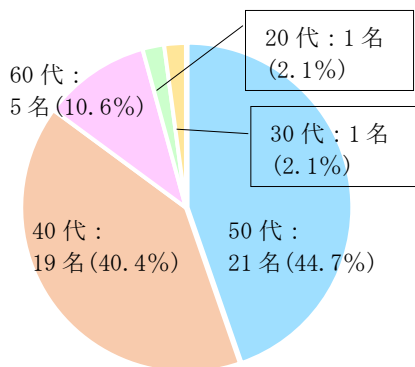
### アンケート結果（回収数47，回収率94%）

#### 1. 回答者の概要

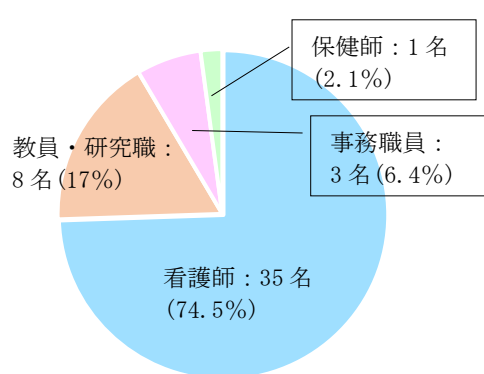
##### 1) 入会状況

会員28名（59.6%）、非会員19名（40.4%）

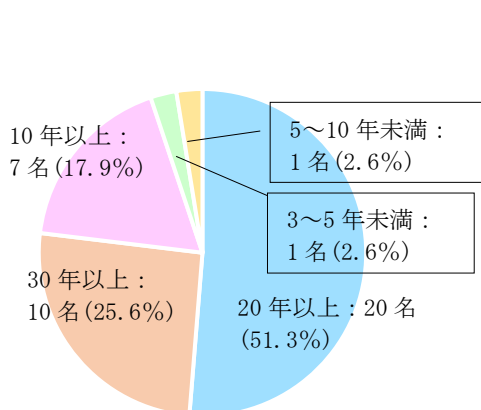
##### 2) 年齢



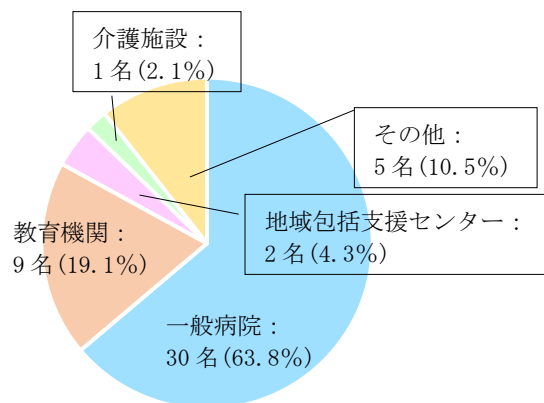
##### 3) 職種



##### 4) 経験年数(看護師・保健師のみ)

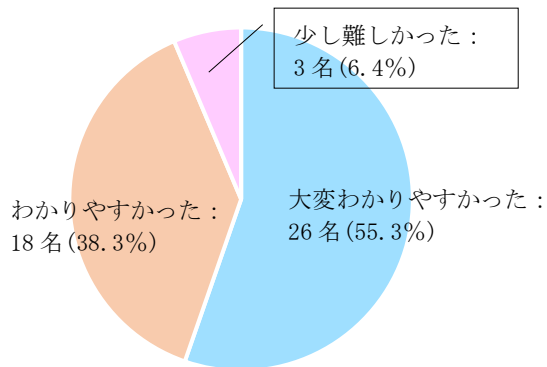


##### 5) 勤務先

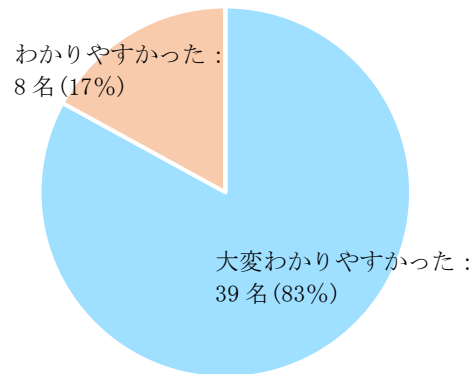


## 2. 研修内容

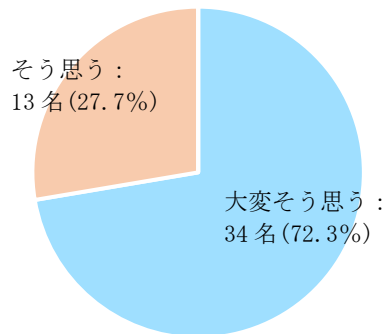
### 1) 小原先生の講演について



### 2) 西條先生の講演について



### 3) 研修内容を実践に活かせると感じたか



### 4) 今回の研修を受けて、取り組もうと考えていること（一部抜粋）

- ・ GCNS として、感染や WOC ナース、看護補助者と協力して、災害トイレ対策チームを作りたい。
- ・ 病院所在地の市や、自分が住んでいるところの防災、特に避難所の開設・運営に関わる情報を収集したい。
- ・ 職員の災害時のトイレに対する認識を高められる働きかけを行う。
- ・ 実際に避難生活が始まったらという視点で、排泄に関する対策の検討。
- ・ 職場の災害用備品について、内容や数量、収納場所を確認する。
- ・ 研修会での学びを職場で共有し、有事（悪天候による停電など）に対応できるように、物品の準備と取扱い方の周知、人の育成に取り組む必要性を感じた。
- ・ 簡易トイレを平時から使用する、または定期的な訓練の実施。
- ・ 災害時のごみの一時保管場所の検討。
- ・ 避難所でのトイレ問題について、地域の方々と一緒に考えていきたい。
- ・ 災害時トイレマニュアルの作成。
- ・ 住民主体の災害避難所のトイレ設置から運用（設置場所・設置方法・掃除・手洗い・ゴミ捨て）までの訓練

### 3. 研修会全体について

#### 1) 参加費について

ちょうどよい44名(93.6%)、もっとやすくしてほしい3名(6.4%)

#### 2) 開催時期については、47名全員がよいという評価

#### 3) 研修での困りごとについて (複数回答可)

問題なかった39名(83.0%)、参加方法が分かりにくかった1名(2.1%)

通信状況が悪かった3名(6.4%)

その他：入室前に名前の変更ができなかった

グループワークの時間が短すぎた

#### 4) 研修に対する感想・意見 (一部抜粋)

- ・災害時のトイレは感染対策としても重要なので、具体的にこれから必要な動きがイメージできた。
- ・現場スタッフを巻き込み、防災に対して共有・共同できるか訓練が必要だと感じた。
- ・トイレの臭い・衛生対策は参考にさせてもらいたい。
- ・グループワークで他の施設の状況を聞き参考になった。
- ・自分では重要だと思っていた、気づいていなかったテーマの研修を受けることができた。
- ・グループワークもよいが、講師の講義や質疑応答の時間をもっと増やしてもいいと思う。
- ・食べる、出す、動く、休むの中の「出す」という欠かせない部分でありながら、後回しにされがちなところを題材にしていたことがよかった。
- ・他病院での取り組み、経験等とても参考になった。
- ・実際の現場に遭遇したことがなく、生活場面にかかわる一般病床の看護師として、今一度考えを深める機会となった。
- ・トイレの話はとても重要だが、日頃の備えではあまり重要視されていないと実感した。